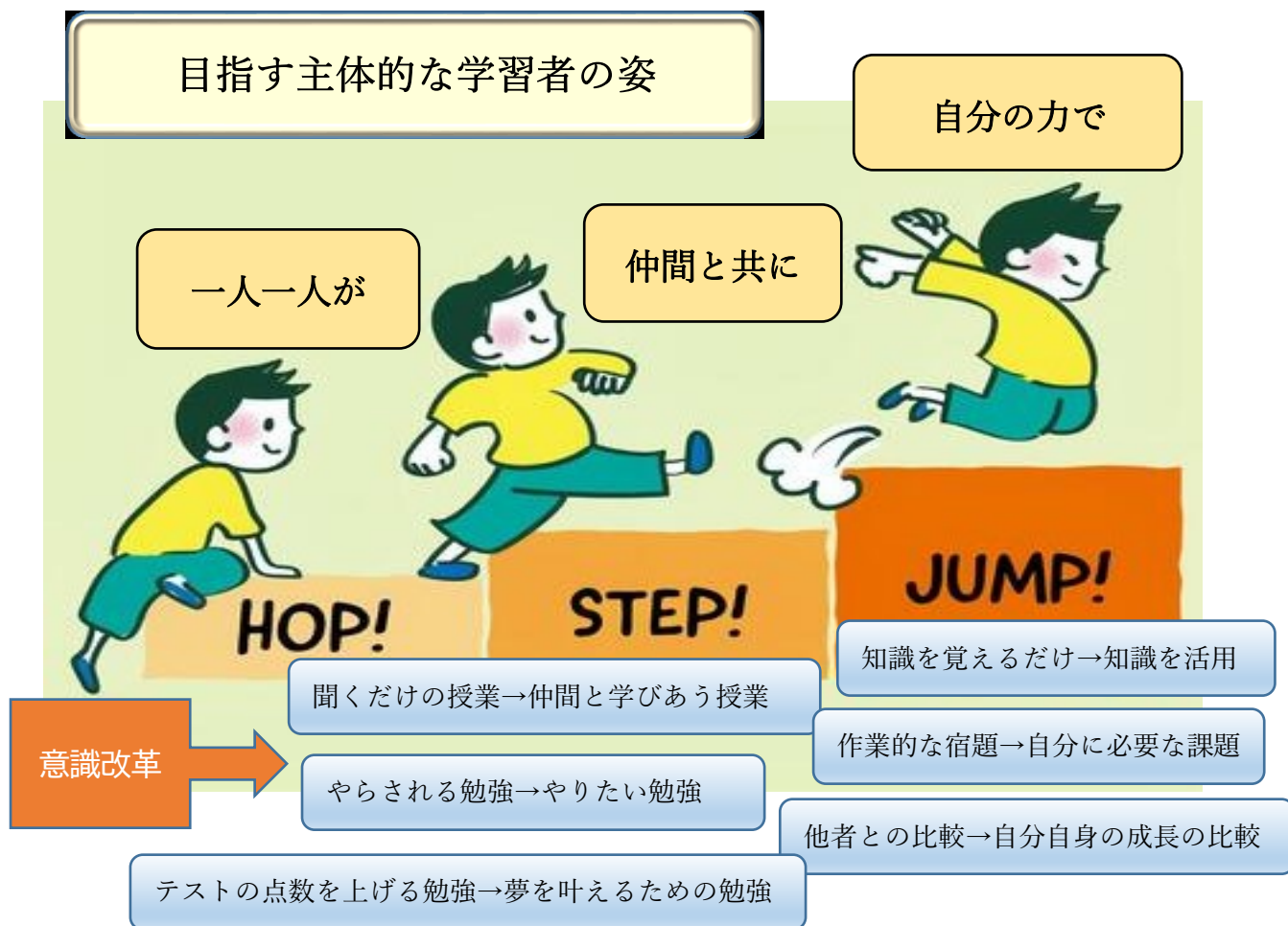


推進期間(第1期):令和4年度～令和6年度

石巻市学力向上プラン

～ 一人一人が 仲間と共に 自分の力で 一步前進 ～

「誰一人取り残さない」をキーワードに、生涯に渡って学び続ける「主体的な学習者」を育成します。推進期間1年目は、「学力」に対する意識改革を行い、社会を生き抜く力を育てます。



令和4年

石巻市教育委員会

石巻市学力向上プラン

- 目指す主体的な学習者の姿**
- ◇自分の考えをもち、自分の言葉で表現できる
 - ◇学んだことを、他者のために使おうとする
 - ◇自分で時間の管理ができる

一人一人が・・・「学習意欲の向上」

- 年2回の標準学力検査結果の自己分析
- タブレットドリルを活用した自己課題克服
- スモールステップで「できた」という達成感の実感
- 「MLA」の実践による、学びの土台作り
- ピアサポート(仲間支援)による自己有用感の実感

仲間と共に・・・「授業改善」

- 「協同学習」を基本とした、対話的な学習スタイルの確立
- 思考力・表現力を高める課題と発問の工夫
- ICTを活用した、個別最適な学びの工夫
- 学力向上のマネジメント力向上、授業力向上の研修の実施

自分の力で・・・「基本的な生活習慣の確立」

- 「はやね、はやおき、あさごはん」の実践
- 保護者との連携による家庭での時間管理の工夫
- 読書時間の確保と読書で得た知識のアウトプットの工夫
- 自己調整力に関する、客観的評価の工夫

一歩前進
・
・
・
自分自身の成長を実感

「主体的な学習者」とは、自分の夢や目標に向かい、自らの課題に工夫と改善を繰り返し、継続的に粘り強く取り組む力をもつ人と捉え、それぞれの能力に応じて、生涯にわたって学び続ける人材を育成する。

推進期間(第Ⅰ期) 客観的数値目標

- 全国学力・学習状況調査の平均正答率を「県平均以上」とする
- ・1年目達成目標1:タブレットドリルの家庭での有効活用率を6割とする
 - ・1年目達成目標2:標準学力調査の達成率向上の学校を7割とする

目次

I 石巻市学力向上プランの策定について

- 1 策定の趣旨 1
- 2 基本方針 1

II 石巻市児童生徒の現状と課題

- 1 全国学力・学習状況調査の結果から見た学力の状況 3
- 2 児童生徒質問紙調査に関して 4
- 3 令和3年度石巻市基礎学力調査から見た学力の状況 5
- 4 課題の焦点化 6
- 5 課題の取組の重点 6

III 計画の推進体制

- 1 全体構造図
- 2 学力向上推進委員会の設置 8

IV 参考資料

- 1 令和3年度石巻市基礎学力調査 各学年の結果 9
- 2 学力向上プラン 全体構造図 11

I 石巻市学力向上プランの策定について

1 策定の趣旨

石巻市では平成29年度から令和3年度まで「学びが育む未来の担い手 心豊かなまち いしのまき」を基本理念とした石巻市教育振興基本計画を策定し、教育施策を展開してきました。その重点施策の「子どもの未来づくり事業」においては、児童生徒に夢や希望を持たせ、未来を生き抜く力を身に付けさせるために、教員の指導力の向上、志を高める取組、児童生徒の学習習慣の形成の視点で、小・中学校が連携して実践を積み重ね、情意面や学習意識の面で成果を得ました。

そこで、今年度から5か年にわたる第2期石巻市教育基本計画が策定されることを受け、学力向上推進事業を立ち上げ、各事業における学力向上に関わる取組を「学力向上プラン」としてまとめることといたしました。

変化の激しいこれからの社会においては、一人一人が個性を發揮しながらも、協働で課題に立ち向かい、よりよく問題を解決する力が求められます。

新しい時代の子どもたちに求められる「確かな学力」を「知識や技能に加え、学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等」ととらえたうえで、児童生徒一人一人の学力向上に向けた具体的方策を示し、家庭や地域と連携しながら取組を推進していきます。

2 基本方針

本市の児童生徒の学力の実態を踏まえ、児童生徒一人一人の学力の向上を目指した事業を市内全域で展開し、確かな学力の育成を図ります。各事業を関連付け、全体の計画の進行管理を行う「学力向上推進委員会」を設置します。（詳細はP7）

主な事業は以下の通りです。

学校わくわくプラン事業

まずは学校が楽しく、安心して学べる場であるために、「学校わくわくプラン事業」における9年間を見通した小中連携の取組や教員の指導力向上を図る研修の実施により、学びの土台づくりを大切にします。そして、安心して学べる人間関係の中で、学習内容を確実に身に付け、身に付けた基礎学力を基に粘り強く課題に取り組もうとする児童生徒を育てるために「主体的・対話的で深い学び」を実現することによって、本市の児童生徒の学力向上を目指します。

「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、ねらいを明確にした授業づくりが必要であることから、基礎学力の確実な定着や協働でより良い学びを生み出すための指導力向上研修を継続します。さらに、ICTの効果的な活用により学習内容の

確実な定着のための「指導の個別化」や、学習の深化拡充のための「学びの個性化」を目指した「個別最適な学び」の充実を図ります。

学力向上推進事業

石巻市学力向上プランの数値目標は、全国学力・学習状況調査の正答率が全国平均以上の状態を維持することです。まずは、全国平均正答率に追いつかなければならない現状を踏まえ、推進期間の第1期は、全国学力・学習状況調査の平均正答率が県平均以上になることを目指します。

目標を達成するためには、一人一人が自分の課題を自覚し、つまづき解消のためのPDCAサイクルを確立することが必要です。また、県の正答率と比較した場合、問題数にしておよそ1問から2問の差ですが、その問題は、単なる知識の暗記だけでは解くことができず、自分の知識を活用しながら課題解決を図る、思考力や判断力、表現力が求められる問題が出題されています。

そこで、令和4年度から市内の小学1年生から中学3年生までの全児童生徒対象に、国語、数学（算数）の標準学力調査を年2回実施し、結果の分析をもとに自分の課題を把握し、一人一人が具体的に取り組むべき学習内容を明確にしたいと考えます。

課題が明らかになった児童・生徒は、令和4年度から市内全小中に導入した、国語、算数（数学）、英語のタブレットドリルを活用し、学校でも家庭でも時間を見つけて課題に取り組める個別最適な学びを実現し、確かな学力の定着を目指します。

石巻市教職員等研修

株式会社山大から昭和54年、55年に寄贈された寄付金により、教職員等の見識を深め、学力向上に関する資質を高める研修を行います。

一つ目は、各学校の学力向上のマネジメント力を向上させることを目的に、管理職対象の研修会を年2回程度実施します。学力向上の効果を上げるために、各学校の実態に応じた、学力向上プランの作成や実践、検証方法などについてのスキルを高めたいと考えます。

二つ目は、学力向上に実績のある自治体や学校における教員の研修を行います。各学校と実態が似ていて、学力向上に成果を上げている学校の実践を学び、石巻市の子供達、学校のためにその力を発揮する教職員を育てたいと考えます。

II 石巻市児童生徒の現状と課題

1 全国学力・学習状況調査の結果から見た学力の状況

全国学力・学習状況調査平均正答率・正答数（令和2年度は調査なし）

国語

校種	年度	正答率			全国比	問題数	正答数		全国比
		全国	県	石巻			全国	石巻	
小学校	H31	64	62	58	-6	14	9.0	8.1	0.9
	R3	65	63	60	-5	14	9.1	8.4	0.7
	前回比	1	1	2	1		0.1	0.3	
中学校	H31	73	74	69	-4	10	7.3	6.9	0.4
	R3	65	65	63	-2	14	9.1	8.8	0.3
	前回比	-8	-9	-6	2		1.8	1.9	

算数・数学

校種	年度	正答率			全国比	問題数	正答数		全国比
		全国	県	石巻			全国	石巻	
小学校	H31	67	65	65	-2	14	9.3	9.1	0.2
	R3	70	68	64	-6	16	11.3	10.2	1.1
	前回比	3	3	-1	-4		2.0	1.1	
中学校	H31	60	58	52	-8	16	9.7	8.3	1.4
	R3	57	55	50	-7	16	9.2	8.0	1.2
	前回比	-3	-3	-2	1		-0.5	-0.3	

（県平均は、仙台市を含む。）

本市の児童生徒は、全国学力・学習状況調査における平均正答率は全国平均や県平均を下回る状況が続いています。

令和3年度は、中学校数学の正答率が最大で7ポイントの差があり、小学校の算数は

前回比を見ても、全国・県が3ポイント向上しているのに対して本市はマイナスになっていることから、国語以上に算数・数学の力が身に付いていないと考えられます。

問題数を見ると1問から2問の正答数の差になりますが、「知識を活用する問題」の正答率が低い傾向がありました。

2 児童生徒質問紙調査に関して

令和3年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査より

質問項目	学校	全国	県	石巻市	全国との差
① 将来の夢や目標を持っている。	小学校	80.3	80.0	82.4	+2.1
	中学校	68.6	69.6	68.7	+0.1
② 人の役に立つ人間になりたいと思う。	小学校	95.5	95.6	96.2	+0.7
	中学校	95.0	94.9	95.3	+0.3
③ 課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる。	小学校	63.5	65.5	70.8	+7.3
	中学校	62.0	65.8	64.3	+2.3
④ 学校に行くのは楽しいと思う。	小学校	83.4	84.7	85.1	+1.7
	中学校	81.1	80.0	73.1	-8.0
⑤ 朝食を毎日食べているか 小：1時間以上、中：2時間以上	小学校	94.9	95.8	94.7	-0.2
	中学校	92.8	94.0	93.1	+0.3
⑥ 毎日同じくらいの時刻に寝ているか	小学校	81.2	83.1	82.2	+1.0
	中学校	79.8	83.6	79.5	-0.3
⑦ 毎日同じくらいの時刻に起きているか	小学校	90.4	90.8	91.8	+1.4
	中学校	92.7	94.1	94.1	+1.4
⑧ 平日、1日当たり3時間以上ゲームをする。	小学校	29.0	30.3	34.6	+5.6
	中学校	32.3	29.6	41.3	+9.0
⑨ 平日どれくらい勉強をするか。 小：1時間以上、中：2時間以上	小学校	62.5	62.0	65.5	+3.0
	中学校	41.8	35.7	33.2	-8.6
⑩ 平日、1日当たりどれくらい読書をするか。 小：30分以上、中：30分以上	小学校	37.4	36.1	37.2	-0.2
	中学校	28.9	29.5	31.5	+2.6
⑪ 解答を文章で書く問題について最後まで書こうと努力した。	小学校	81.3	78.9	77.0	-4.3
	中学校	73.7	72.5	69.3	-4.4
⑫ 解答を言葉や数、式を使って説明する問題について最後まで書こうと努力した。	小学校	79.9	76.5	73.4	-6.5
	中学校	57.8	54.6	48.6	-9.2
⑬ 国語の調査問題の解答時間は十分だった。	小学校	70.3	74.5	75.0	+4.7
	中学校	75.3	74.2	68.4	-6.9
⑭ 算数(数学)の調査問題の解答時間は十分だった。	小学校	81.7	82.5	78.9	-2.8
	中学校	80.5	79.4	75.0	-5.5

全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査から、表①～③では、「主体的で対話的で深

い学び」に向けた授業改善の成果と見られる肯定的な回答があり、「石巻未来づくり事業」の成果が見られます。一方で、表⑪～⑭からは、③に示されたように、課題解決に向けて進んで取り組む意欲があるにも関わらず、解答時間の不足を感じたり、最後まで粘り強く取り組むことができなかつたりする傾向があることが分かりました。加えて表④から、本市では中学生になると「学校に行くのが楽しい」と回答する生徒が全国平均を下回ることも課題となっております。表⑤～⑦から、朝食・睡眠に関する生活習慣はほぼ全国平均並みであるものの、表⑧～⑩から、家庭での過ごし方にも課題があり、家庭の協力を得ながら、児童生徒が家庭でも目的を持って主体的に学習に取り組めるよう家庭学習の改善と充実を図る必要があります。

3 令和3年度石巻市基礎学力調査から見た学力の状況 (P10【参考資料】参照)

算数・数学の知識の活用力が低いという傾向を踏まえ、令和3年3月に、市内全小学校、中学校1、2年生に「石巻市基礎学力調査」を行い算数・数学の基礎的な計算力の実態を把握しました。

小学1年生ではほぼ9割近くの正答率であったにも関わらず、学年が進むにつれて、正答率が7～8割に下がっていく傾向が見られます。中学生では、「文字と式の計算」「分数」等、小学校で理解が不十分であった生徒は中学校の内容を理解できず、つまずく現状が見られます。これらのことから、つまずきを解消しないまま進級進学してしまっている児童生徒がおり、そのことが全国学力・学習状況調査の結果にも反映されていると推測されます。児童・生徒のつまずき解消を確実に行わず、分からないまま進級・進学させることが大きな課題であると考えています。

校種	学年	減法			乗法		除法			その他
		整数	分数	小数	整数	分数	整数	分数	小数	
小学校	2年	繰り下がり								「単位(時間)」
	3年						2位数÷1位数			
	4年	繰り下がり	分数の減法	小数の減法	3位数×3位数					「四則混合の計算」
	5年		分数の減法		3位数×3位数				小数の除法	
中学校	1年	正負の数								「文字と計算」 「代入と式の値」 「方程式」
	2年	文字と式	文字と式(通分)		文字と式(除法)	通分		逆数		

上の表は、正答率が70%以下の項目を記したものです。この表から「減法」が定着していない傾向があると考えました。そして、そのつまずきの始まりが小学校2年生の「繰り下がり」にあるのではないかと考えられます。

また、「単位」や「文字」など、数字と文字の使い方やその概念についても十分理解できないまま進級、進学していることが分かり、それも小学校2年生の「時間の単位」から始まっていると考えることができます。

4 課題の焦点化

「全国学力・学習状況調査」「全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査」「石巻市基礎学力調査」から、石巻市の児童・生徒の学力の課題を以下のようにまとめました。

- ① 問題を理解する力が不足している。
- ② 課題に対して粘り強く取り組み、解決できるまで考える力が不足している。
- ③ 学習の積み残しがあり、学年が進むにつれて「学校に行くのが楽しい」と感じる児童・生徒の割合が減る。
- ④ できないことは分かっているが、その解決方法や解決に費やす時間を管理する調整力が不足している。
- ⑤ 「学力」を自分事と捉え、自分で解決しようとする自立心が不足している。

5 課題の取組の重点

焦点化した課題の解決のために、「一人一人が 仲間と共に 自分の力で 一歩前進」を副題に、以下の3つのポイントで学力向上プランに取り組んでいきます。

- ① 学習意欲の向上・・・・・・・・・・「一人一人が」
◎児童・生徒一人一人が自分の課題を把握し、その解決に向けて継続的に粘り強く取り組む実践 【年2回標準学力調査、タブレットドリル】
- ② 授業力の向上・・・・・・・・・・「仲間と共に」
◎「協同学習」を主体とした「考える授業」の日常的な実践
【指導力向上研修、石巻市教職員等研修】
- ③ 基本的な生活習慣の確立・・・「自分の力で」
◎「読書習慣の確立」、「はやね、はやおき、あさごはん」の実践
【家庭との連携、タブレットドリル等を活用した家庭学習】

この3つの取組の実践により、児童・生徒が「一歩前進」したことを実感し、他者との比較ではなく、自分自身との成長を比較することで、学ぶことの楽しさや大切さを実感し、生涯学び続ける「主体的な学習者」になるものと考えます。

III 計画の推進体制

1 全体構想図（P12【参考資料】参照）

2 学力向上推進委員会の設置

石巻市学力向上推進事業の実施にあたり、「学力向上のためのPDCAサイクル」を確立し、本市の小・中学校における学力の全体の底上げを図るための取組について検討を行い、具体的な方策を提言するために学力向上推進委員会を設置します。

学力向上プランの推進にあたっては、家庭や地域、幼保小中、行政の連携が必要なことから、学力向上推進委員会の構成員に保護者及び福祉行政担当者を加え、様々な立場から検討を重ね、改善策や取組に生かすよう努めます。

① 構成員

【学力向上推進委員会】

学識経験者（子ども保育課長含）、PTA代表、校長会代表、教頭会代表、
教員（教科等指導員）、指導主事

【ワーキンググループ】

学識経験者、教頭会代表、教員（教科等指導員）、担当指導主事

② 学力向上推進委員会の運用計画

第1回	4月26日（火）14：00～	市役所庁議室	方向性の確認
	※4月26日（火）終了後	市教科等指導員 第1回研修会	市役所庁議室
	※7月26日（火）13:00～	市教科等指導員 第2回研修会	市役所401
	15:00～	第1回学力向上ワーキング会議	市役所401
第2回	9月5日（月）15：00～	市役所402	取組の報告
	※12月26日（月）14:30～	市教科等指導員 第3回研修会	市役所401
	※2月6日（月）14:00～	第2回学力向上ワーキング会議	市役所401
	※2月15日（水）13:30～	学校わくわくプラン実践発表会	遊楽館
第3回	2月20日（月）15：00～	総合体育館会議室	次年度へ向けて

③ 各事業との関連

学力向上推進委員会は、学力向上推進事業の進行管理に加え、学校わくわくプラン推進会議における学校わくわくプラン事業、学び支援コーディネーター等配置事業の評価・検証結果の報告を求めることにより、本計画全体の進行管理を行うものとします。また、全国学力・学習状況調査の結果については、本市Webページにて、その概況と詳細を公表するものとします。

④ 学力向上推進委員会の取組内容

主な取組		具体的実施内容	主な連携
学力向上プランの検討	学力向上推進事業の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の現状分析 ・授業改善の提言 ・タブレット活用促進（タブレットドリルの活用の仕方の提言） など 	学識経験者 P T A リーキンググループリーダー 市教科等指導員 子ども保育課
	家庭教育、家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアコントロールやメディアリテラシーの実践 ・読書習慣、家庭学習習慣の形成 など 	
	幼保小連携、接続の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ、なめらかな連携の検討 など 例：幼児教育「アプローチカリキュラム」の検討 	
学期制の意見交換		<ul style="list-style-type: none"> ・メリット、デメリットの洗い出し ・学力向上や生活改善に向けた効果的な学期制についての意見交換など 	

3 推進期間の実践計画

第Ⅰ期：令和4年度から令和6年度までの3年間

① 1年次・・・学力に対する「意識改革期」

「学力」は、単に「知識の暗記」という捉えから、課題に対して自分で考え、他者に伝える力が必要であることを児童生徒、学校、家庭が共通理解し、具体的に取り組んでいく。

【意識改革したい具体例】

- 児童生徒全員に対する一律な課題提示 → 一人一人に適した課題提示
- 時間と回数にこだわる学習 → 効率を重視した学習
- テストの点数重視で評価する方法 → 課題解決過程の思考を重視する評価
- 一人で暗記する学習 → 議論を通して思考を深める学習

【各事業の主な取組】

- ・学力向上推進委員会による学力向上プランの推進
- ・全国学力・学習調査等による実態把握・課題の明確化・解決策の検討
- ・学力向上支援事業重点校でのPDCAシートの作成
- ・市内全小中学校での実践

② 2年次・・・知識のアウトプット「充実期」

学んだことを他者に伝えたり、自分の知識が誰かの役に立つ機会を意図的に設定したりすることで、自己有用感を向上させ、更に主体性を発揮させる。

【各事業での主な取組】

- ・全国学力・学習状況調査結果の比較検証、課題解決策の実践と検証
- ・学力向上支援重点校の実践を水平展開
- ・市内全小中学校でのPDCAシートの作成
- ・市内全小中学校での実践

③ 3年次・・・学びの主体性「発展期」

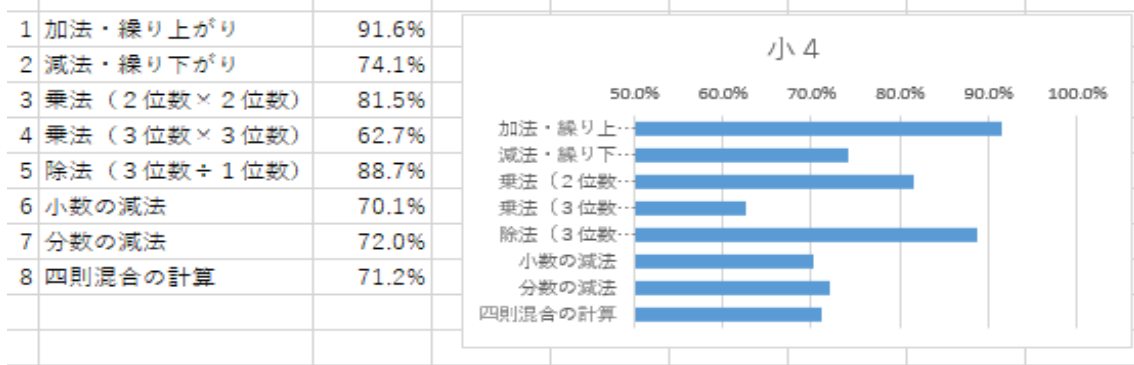
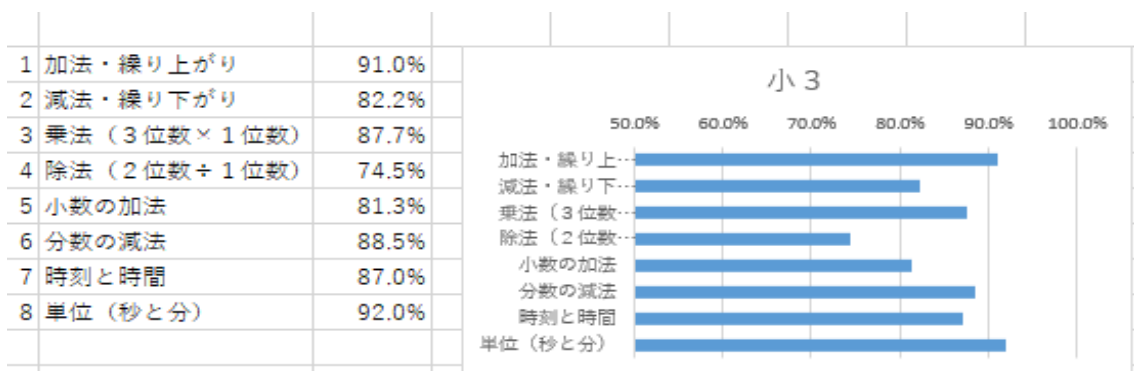
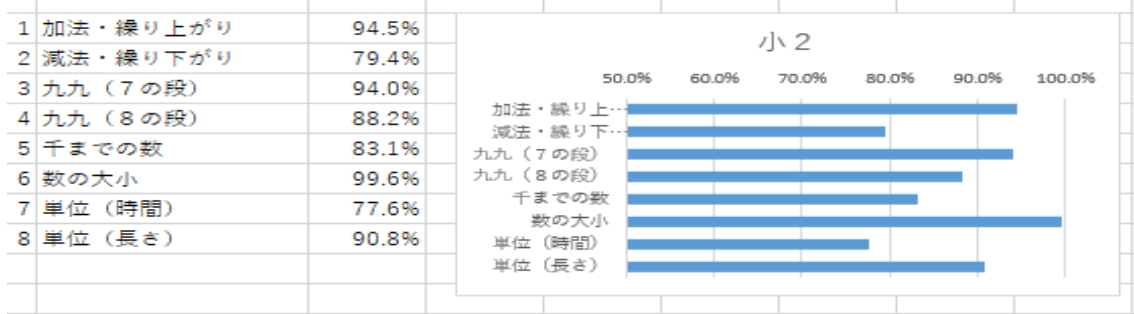
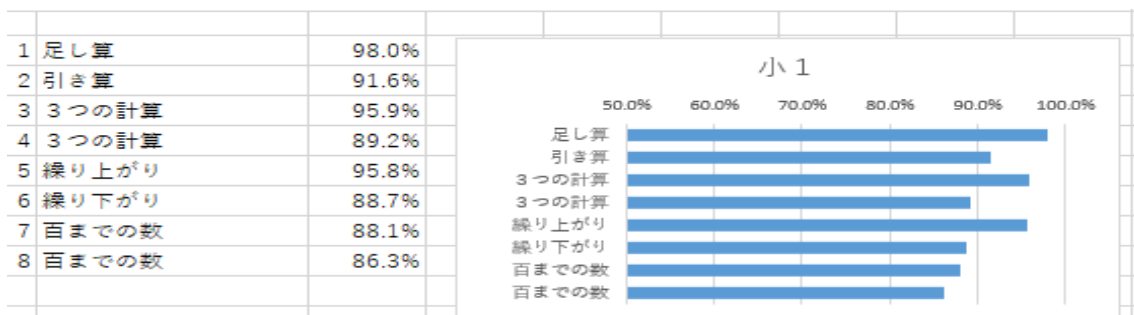
学力を身に付けた児童・生徒が、豊かな生活を送るためにすべきことを主体的に実践する。

【各事業での主な取組】

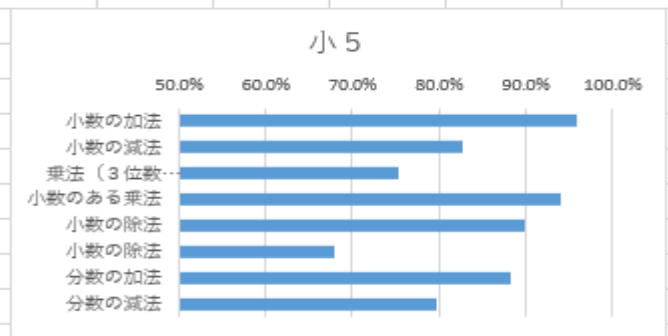
- ・全国学力・学習状況調査結果の比較検討、課題解決の評価と分析
- ・学力向上に関する実践共有
- ・市内小中学校でのPDCAシートの改善
- ・市内全小中学校での実践

IV 参考資料

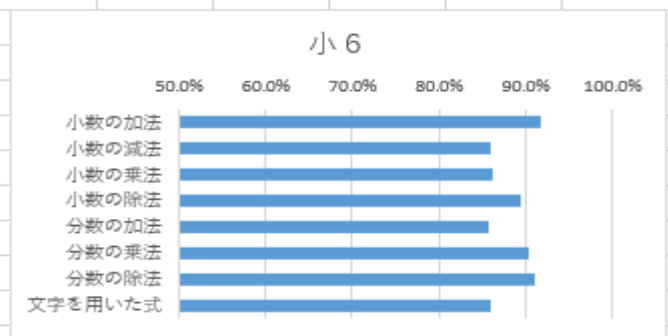
1 令和3年度石巻市基礎学力調査 各学年の結果



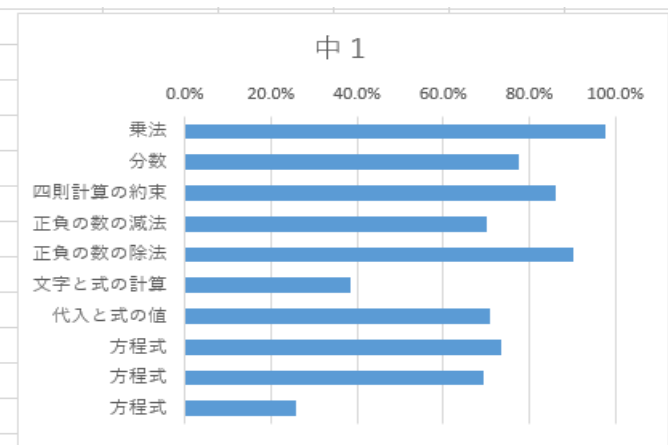
1	小数の加法	96.0%
2	小数の減法	82.8%
3	乗法（3位数×3位数）	75.3%
4	小数のある乗法	94.0%
5	小数の除法	89.9%
6	小数の除法	67.9%
7	分数の加法	88.3%
8	分数の減法	79.6%



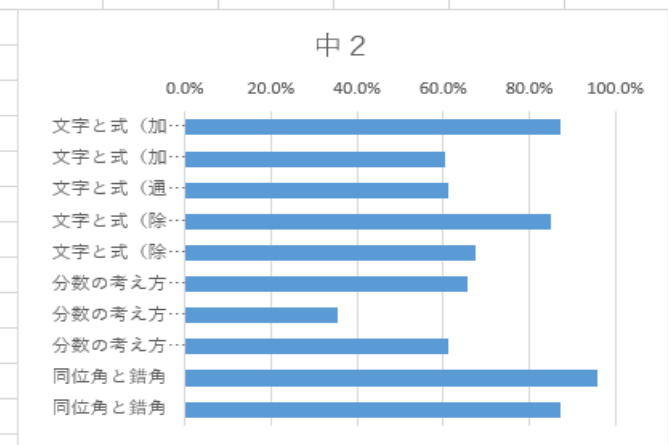
1	小数の加法	91.8%
2	小数の減法	85.9%
3	小数の乗法	86.2%
4	小数の除法	89.5%
5	分数の加法	85.7%
6	分数の乗法	90.4%
7	分数の除法	90.9%
8	文字を用いた式	85.9%



1	乗法	97.7%
2	分数	77.4%
3	四則計算の約束	86.2%
4	正負の数の減法	70.1%
5	正負の数の除法	90.2%
6	文字と式の計算	38.4%
7	代入と式の値	71.0%
8	方程式	73.5%
9	方程式	69.5%
10	方程式	25.9%

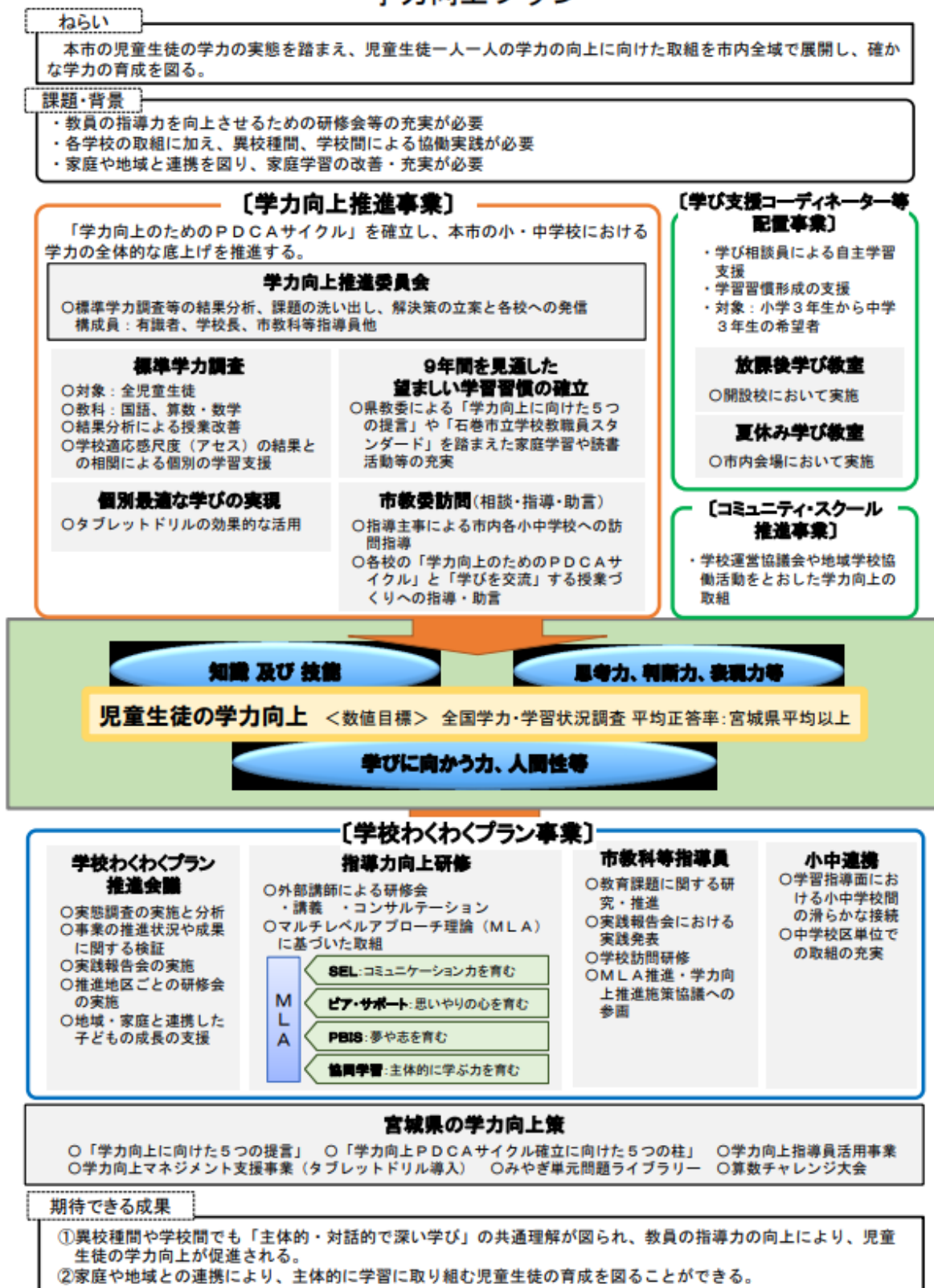


1	文字と式（加法）	87.3%
2	文字と式（加減法）	60.6%
3	文字と式（通分）	61.2%
4	文字と式（除法）	85.0%
5	文字と式（除法）	67.6%
6	分数の考え方（通分）	65.7%
7	分数の考え方（通分）	35.6%
8	分数の考え方（逆数）	61.1%
9	同位角と錯角	95.8%
10	同位角と錯角	87.2%



2 学力向上プラン 全体構想図

学力向上プラン



「誰一人取り残さない」学力向上

新しい時代の子どもたちに求められる「確かな学力」を「知識や技能に加え、学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等」ととらえたうえで、実態に応じて修正を加えながら、本プランによって「主体的な学習者」の育成を推進してまいります。

第Ⅲ期：R10～R12 「主体的な学習者」の育成

【全国学力・学習状況調査の平均正答率、全国平均以上の維持を目指す】

児童・生徒一人一人が自分の良さを自覚し、自分が得た知識によって周囲の人を幸せにしようという意識をもち、主体的に学びに向かう児童・生徒を育成する期間とします。

第Ⅱ期：R7～R9 「石巻スタイル」の確立

【全国学力・学習状況調査の平均正答率、全国平均を目指す】

第Ⅰ期の実践の累積により、児童生徒の意欲を充実させ、授業力向上のポイントを明確化し、時間の自己管理ができる児童・生徒の育成が継続できる「石巻スタイル」を確立する期間とします。

第Ⅰ期：R4～R6 「学力」に対する意識改革

【全国学力・学習状況調査の平均正答率、県平均を目指します】

「学力」は、単に「知識の暗記」という捉えから、社会を生き抜く力を身に付けるための「学び方を学ぶ力」であることへ、児童生徒、学校、家庭・地域が意識を変え、主体的な学びを確立する期間とします。

一人一人が
【学習意欲向上】

仲間と共に
【授業改善】

自分の力で
【基本的な生活習慣の確立】